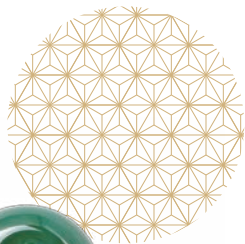




しまねの 伝統工芸

Traditional Products
of Shimane



しまねの 伝統工芸

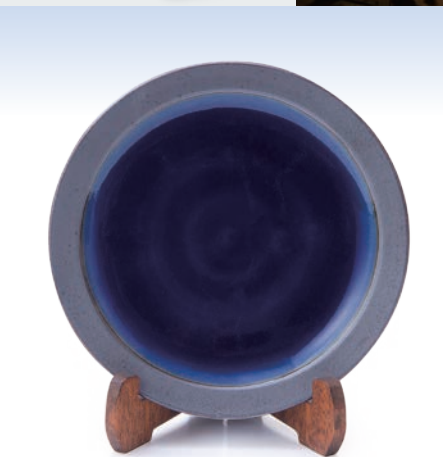


Traditional Products

暮らしに
取り入れたい
島根に伝わる
手しごとの技



Shimane



Index

石工品	04
陶磁器	06
漆器	11
木竹品	12
和紙	16
金工品	18
人形玩具	20
石見神楽	21
染織物	22
貴石細工	24
その他	25
所在地マップ	26
製造業者連絡先	28



島根県ふるさと伝統工芸は、県内の伝統工芸品の振興を図るために昭和56年に制定された「島根県ふるさと伝統工芸品振興要綱」に基づき、島根県知事が指定したものをいいます。

「島根県ふるさと伝統工芸」の5つの要件

1. 島根県内で製造されているもの
2. 主として日常生活に使われるもの
3. 製造課程の主要部分が手作業によるもの
4. 伝統的な技術や技法によって製造されたもの
5. 伝統的に使用されてきた原材料を使っているもの

石工品

東部エリア

出雲石灯ろう

1

国指定の伝統的工芸品（昭和51年）



宍道湖南側の松江市宍道町来待地区を中心に産出される来待

石はやわらかで粘りがあるため加工がしやすく、奈良・平安時代には広く全国各地に流通し利用されてきました。江戸時代に入ると藩外への輸出は藩の許可を必要とする「お止石」となり、加工も城下の職人だけが許されていました。細かな穴を持つため吸水性が良く、苔がつきやすい特徴があり、屋外に置けば、きれいな薄緑色の苔が石肌を覆

い、まろやかな渋みのある出雲らしい雰囲気醸し出します。

この来待石を使ってつくられる出雲石灯ろうは雪見型、春日型など伝統的な意匠によく映えることから、和風の庭にしっかりとした古色風雅な趣を与えます。近年では時代にあわせた、立方体の型をくり抜き大小の丸穴やスリットをあしらったモダンなスタイルの石灯ろうづくりも行われています。



陶磁器

西部エリア

石見焼

国指定の伝統的工芸品（平成6年）

江津市を中心とする島根県西部の石見地方で焼かれている陶器の総称。この地に多量に産出する粘着性の強い都野津層の粘土を材料とし、耐火限界ぎりぎりの高温で焼き上げることで表面がガラス化し、硬質で耐久性の高い焼きものとなります。石見焼を代表する「はんどう」と呼ばれる一抱えもあるような大きな水瓶は、江戸時代後期に北前船で全国各地に出荷され石見焼の名を全国に広めました。生活様式の変化により「はんどう」の需要は減りましたが、丸物と称される大物づくりの技術は、伝統的技法「しの造り」として継承され漬物かめや傘立、花入れ、水連鉢、水盤などに活かされています。

現在は六軒の窯元が石見焼を継承し、素朴であたたかみのある作風の陶器でそれぞれの個性を競い合っています。



3 雪舟窯



3 尾上窯



3 吉田製陶所



3 石州宮内窯



3 石州嶋田窯



3 元重製陶所

西部エリア

温泉津焼

大田市温泉津は古くから焼きものの盛んな土地柄で、温泉津温泉街から山手に上った「やきもの里」には、国内最大級十五段の登り窯があり、陶芸体験もできるなど観光地としても人気です。温泉津焼の三軒の窯元が地域の歴史文化に根付いた作陶を行っています。



9 椿窯



9 (有) 椿窯



9 森山窯

石州亀山焼

代表的な技法は掻落しで、辰砂、焼き締め、赤流し、青流し、黒釉、白釉、イラボ釉など多彩な釉薬を使い作品づくりを行っています。



11

雪舟焼窯元

酸化銅釉の酸化、還元の微妙な具合でできる雲模様、古陶器を偲ぶ寂びた土色の味が特徴的で、石見の郷土色を現す作品づくりを行っています。



10

布志名焼

4 ゆまがま 湯町窯

スリップウエアと呼ばれる技法で化粧泥で美しい模様を施しているのが特徴です。現在それぞれの窯元とも、布志名焼本来の流れをくみながら、独自の風情を醸し出した作品を作り上げています。

錦山焼

独特な成型と多種多様な釉薬の色調、その配色に特色があります。日々の暮らしをより風雅にさせるための一助となるような器づくりを信念に、日々製作が続けられています。

楽山焼

刷毛目と「伊羅保写し」といわれる技法が特徴で、器は、同名の釉薬を使って仕上げられた落ち着きのある淡い山吹色をしています。

袖師焼

出雲に伝わる技術をベースに、地元産の土と釉薬にこだわり、丈夫でシンプルな中にも潤いを持つのが袖師焼の特徴です。各地の様々な陶法をとりいれながら時代ニーズにマッチした作品づくりを行っています。近年では、赤土粘土など、これまでと違った土を使用した作品づくりにも挑戦しています。



4 うんぜんがま 雲善窯



出西焼

「健やかで温かい実用の陶器づくり」という民芸の心を礎に、「丈夫で飽きがこず、安価で提供できるものこそ多くの人たちが毎日喜んで使えるもの」との理念で製作に臨んでいます。出西焼では、創業以来、登り窯を焼き続けており、現在も創業者の子弟を含め十数人が陶器作りに携わり、年数回の登り窯の窯出しをしています。陶土や釉薬は地元島根県産の原料を主体にすべて自家調合するこだわりを持っています。

火の川焼

瑪瑙のような深い赤い色の鉄朱釉、来待石を調合に使った伊羅保釉などを使い、食器を中心に花器、抹茶茶碗、オブジェなど多彩な作品を作成しています。



白磁 はくじ 14

白や群青色の柔らかな色合いと鎬手や面取りの技術からなるデザインは美しく、使い続けるほどに愛着が増し、日常を彩ります。



出雲本宮焼 いずもほんぐうやき 15

宍道湖の夕景をモチーフにした「夕景シリーズ」を代表作とし、近年は若い世代にも松江の茶の湯文化に触れて欲しいという思いからラテ茶碗の開発を行い、パステルカラーの陶器を製作するなど、現代に合ったものづくりにも力を入れていきます。



焼火窯 たくひがま 12

焼火山の豊かな自然に恵まれ、樹木や海藻から釉薬を、赤土を陶土として作陶を続けています。隠岐の海・山・水・土・風から産まれ、隠岐にこだわった独特な色合いと風合いを兼ね備え、隠岐らしさにこだわった作品づくりを続けています。



漆器

東部エリア

八雲塗 やくもぬい

彩漆で華やかな花鳥風月などの紋様や景色を描き、金銀螺鈿をあしらひ、その上に漆を幾重にも塗り重ね、傷が付かないように掌で研ぎ上げる独特な技法から生まれる八雲塗。明治初期に松江西茶町の塗師飯坂田平一が考案した貴重な工芸品です。年月を重ねることに透漆が透明度を増し、彩漆がしだいに華やかに発色するという面白さは、高い評価を得ています。



2 しつげい 漆芸のわたなべ



2 やまもとしつぎてん (株)山本漆器店



木竹品

雲州そろばん

22

国指定の伝統的工芸品（昭和60年）

「雲州そろばん」は江戸時代後期に奥出雲の大工・村上吉五郎が芸州そろばんを参考に地元素材で造り上げたのが始まりです。その造りの精巧さに魅せられた地元の大工たちが自ら道具や加工組み立てを工夫し、その技術を公開することで奥出雲にそろばん造りの素地ができあがりしました。

素材加工から仕上げまで180以上の工程を要するそろばん造りは、まさに匠の技の集大成。枠に黒檀や紫檀、玉に黄楊や樺を用いており、計算機としての機能性だけでなく、美しさも兼ね備えています。

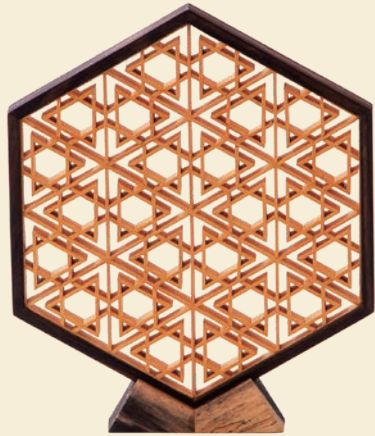


組子細工

細く挽き割った木に溝や角度をつけ、一本一本組み付けて様々な模様を描く建具の伝統技法。和の美の象徴ともいわれる「組子細工」の精緻な技をさらに進化させ、従来にはなかった曲線を大胆に使った作品を手がけたり、後継者の育成に尽力する工房もあります。



26 よしはらけいじ 吉原敬司



26 ふなききよし 舟木清



26 かどわかずひろ 門脇和弘

銘木工芸品

木を挽いて、削って研いで組み合わせ、その美しい木目や木地を生かして作られた銘木工芸品。黒檀紫檀、花梨などの原木を活かした座卓や衝立、出雲の檜の挽物細工や黒柿など希少な材を扱う木芸、安来の檜の指物、松江の籐細工や刳物木工など、伝統を継承しながら暮らしに寄り添う手仕事の技が県内各地に息づいています。

東部エリア

福こづち 23

「だいこく様」の持つ「打ち出のこづち」をモチーフにする出雲大社にゆかりのある工芸品です。檜木目の中心がこづちの真ん中にびたりとくる職人技は見事です。様々なお祝いの贈り物としても使われており、年月が経つほどに色艶が出てきます。



まつえほんとうざいく
松江藩籐細工 29



もっこうひん
木工品 33



もくげいひん
木芸品 24



ひきものろくろ
挽物轆轤 35

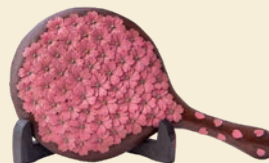


きじにんぎょう
木地人形 28

木工ろくろで仕上げられる丸い体に美しい彩色を施し、品の良い顔をのせた木地人形のひな飾り。魂を宿すような目を描き入れて表情をつくれれば、つましいながらも雅な雰囲気生まれます。出雲では獅子頭や一刀彫などの秀作が揃います。



さしものもっこう
ケヤキ指物木工 30



まつえぼり
松江彫 34



ひきものざいく
ケヤキ挽物細工 25



いずもいっとうぼり
出雲一刀彫 27



いずもししがしら
出雲獅子頭 31



おくいずもめいぼくせいひん
奥出雲銘木製品 32



たいしゃづくかみだな
大社造りの神棚 36



くりものもっこう
刳物木工 37

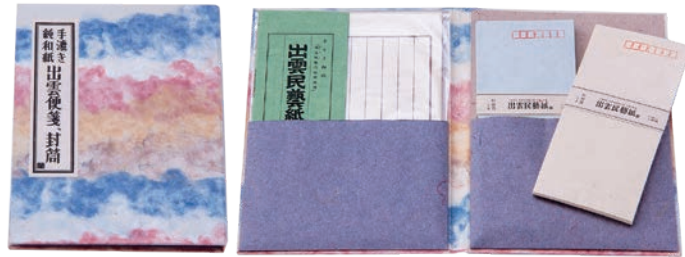
和紙

東部エリア

出雲民芸紙

44

和紙の原料である楮・三稜・雁皮に恵まれる出雲地方では天平時代（70年代）から紙づくりが行われ、江戸時代に隆盛を極めました。のちに人間国宝となる故安部榮四郎によって昭和初期に伝統的な手漉き和紙づくりが松江市八雲町に復興され「出雲民芸紙」として継承されています。他に並ぶものがないと賞される雁皮紙で、他にも原料の持ち味を生かしたベーシックなものから、美しい彩りの創作和紙など多彩な和紙づくりを行っています。



広瀬和紙

49

広瀬和紙は、江戸時代に広瀬藩の藩札づくりをきっかけに生まれた安来市の手漉き和紙です。毛羽立ちが少なく、コシがあり、厚手で丈夫なのが特徴です。近年は植物由来の柔らかい染色や押し花染めも注目されています。



斐伊川和紙

48

雲南市の上熊谷地区は古くからの出雲の紙すきの里として知られており、松江藩松平家7代藩主不昧公の時代には400軒ほどの家のほとんどが和紙づくりに従事していたと伝えられ、茶の湯で使う懐紙が多く作られています。現在は「斐伊川和紙」としてその歴史が継承されています。



西部エリア

石州半紙

46

地元産の楮を原材料に、微細で強靱、長期保存に耐えうる品質が特徴です。かつては大阪商人が石州半紙を帳簿に用い、火災時にはいち早く井戸に投げ込んで保存を図ったなど、その品質の良さを語る逸話には事欠きません。先人たちから引き継がれた伝統技術・技法は浜田市三隅の職人たちの手で受け継がれ、現在も手漉き和紙として国内最高水準の品質を誇っています。昭和44年に国の重要文化財の指定を受け、平成21年ユネスコ無形文化遺産に記載され、平成26年には日本の手漉き和紙技術として再掲されました。



勝地半紙

45

江津市の「勝地半紙」は原料の栽培から全て手作りの伝統的な手漉き和紙。江戸時代には津和野藩の特産物として、盛んに生産されていました。



石州和紙

47

国指定の伝統的工芸品(平成元年)

起源は奈良時代、万葉歌人柿本人麻呂により伝授され造り始められたと伝えられています。柔らかな手触りで長期保存に耐え、美術工芸や書籍等に最適とされました。現在では様々な機能性を高めた和紙づくりや、現代のインテリアに合う和紙を使った製品づくりに取り組まれています。



金工品

奥出雲玉鋼工芸品

16

ヤマタノオロチ伝説の地で知られる奥出雲は、伝統的なたたら製鉄による鉄の生産が盛んに行われ、高度な製鉄技術が発達したところです。現在も鳥上地区にある「日刀保たたら」では伝統的なたたら製鉄が営まれ、純度が高く優れた性能を持つ「玉鋼」を生産し、全国の刀匠の元に届けています。この玉鋼や和鉄をさらに鍛錬して作り上げる日本刀や刃物などの工芸品は、美術品としても最高の価値と品質を誇るものです。



鍛造品

庶民の暮らしを支えてきた「野鍛冶」の技術と心意気を大切に、その伝統を活かしつつ現代の暮らしにもマッチする製品作りに取り組む鍛冶工房もあります。灯明台や燭台、花器などには鉄がもつ、独特の味わいがあります。

出雲鍛造工芸品 17



刃物

江戸時代に奥出雲で栄えた「刀鍛冶」の技術を継承して作られる刃物や農具。手作りの使い勝手の良さ、切れ味の良さ、そして長く使い続けられることから広く愛用されてきました。日本刀の工法を取り入れ、鋼をはさみ込み小槌で打ち延ばして造られた品々は、丁寧に手入れすることで一生ものの逸品となります。



石見岡光刃物 19



雲州幸光刃物 18



雲州忠善刃物 20



高橋鍛冶製品 21

人形玩具

東部エリア

大社の祝靨

54

出雲大社に仕える二つの国造家に伝わる由緒正しい「鶴」と「亀」の靨。縁起の良い鶴亀の文字の輪郭をそのまま造形したもので、慶事の祝品として喜ばれています。



じょうき・鯛車

53

大社の夏を彩る風物詩で、かつては七夕やお盆の行事に子どもたちが曳いて歩いたものです。



松江姉様

56

松江藩の御殿女中が手すさびに始めたものと伝えられる和紙人形。シンプルな造形ながらあでやかさ、華やかさを感じさせます。小泉八雲もこよなく愛したといわれています。



松江和紙てまり

57

出雲民藝紙の質感と色合いを生かした和紙てまり。和紙の上に幾何学模様のように巻かれがられる彩糸は、てまりを華やかなものに仕上げています。



長浜人形

55

美しく彩色された素朴で温かみのある素焼の土人形。浜田市長浜は江戸時代に人形師が多く暮らしていましたが、現在は二軒の工房がその伝統を継いでいます。



石見神楽

西部エリア



52 柿田兼志



52 恵木勇也

石見地方を代表する伝統芸能「石見神楽」を絢爛に彩ります。

石見神楽衣裳

43

金糸銀糸で一針一針刺繍して作られる石見神楽衣裳はもうひとつの舞台の主役。その豪華絢爛さを見る人を魅了します。



石見神楽蛇胴

59

石見神楽の代表的な演目の「大蛇」。ダイナミックで勇壮な大蛇の動きを表現する蛇胴は提灯をヒントに考案されました。竹の骨組みに強靱な石州和紙を張って作られています。



石見神楽面

強靱な石州和紙の楮半紙を柿渋入りの糊で数十枚も貼り重ねて作られる石見神楽面。軽量、頑丈が持ち味で、激しい神楽の所作にも対応できるものです。数ある神楽団が独自のものを作ろうとするため、種類が非常に多く、その違いや個性を見るのも楽しみの一つです。



染織物

東部エリア

筒描藍染

38

渋紙の筒袋に入れた糊で家紋や鶴、亀などを生地に描いて藍瓶につけて染め、乾燥させた後に川の流水で糊を洗い落とすと、描いた絵が白く浮き上がってくる筒描藍染。風呂敷やのれんなど出雲の庶民の暮らしから生まれた民芸は、今もなお継承されています。



出雲織

41

絣織から発展したもので、その技法は江戸時代に確立されました。実用性に富み、洗えば洗うほど独特の深みと美しさが出てくるのが特徴です。



広瀬絣

39

江戸時代後期に始まった20年以上の長い歴史を持つ広瀬絣。大柄の絵模様が特徴で、細かく複雑な柄模様を正藍一色の濃淡で正確に織り上げます。



安来織

40

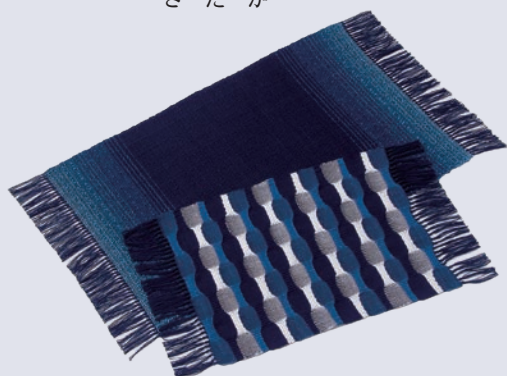
木綿糸を先染めし伝統絵柄を織り上げ、文字や絵模様を見事に織り上げるのが特色です。



出西織

42

正統派民芸調の作風が特色で、暮らしに密着した手織物として、広く愛用されています。



貴石細工

東部エリア

出雲めのう細工

50

花仙山（松江市玉湯町玉造）から産出される青めのうを使った玉作りは弥生時代から始まり、平安時代まで続いたもののその後途切れてしまいましたが、江戸時代後半にめのう細工の技術が復活し、現在に繋がっています。置物や装飾品など様々な用途がありますが、近年は良縁祈願のパワーストーンとしてや、ブレスレットなどファッションアイテムとして多く利用されています。



隠岐エリア

隠岐 黒耀石細工

51

黒耀石は火山から噴出した花崗岩質の溶岩が急速に冷やされガラス状に結晶したもので、隠岐産のものは純度が高く光沢の美しさには定評があります。古代ではその石片の鋭さから矢じりや刃物などに使われていましたが、現在は黒耀石にアワビを埋め込む螺鈿など新たな技法も取り入れ、工芸品やアクセサリーなどを作られています。



その他

飯南のしめ縄

61

しめ縄の製作はすべて手作業で行われており、主原料となる稲わらはすべて島根県内産のものが使われています。出雲大社をはじめとする国内外の神社等に取付けるしめ縄の製作・奉納を行っています。



石見根付

60

着物の帯に巾着などを下げるための留め具「根付」。自然の素材そのもののカーブや形をそのまま活かし、人を微笑ませる不思議な魅力と物語のある小さな世界を作り出しています。



杉葉線香

58

杉葉の粉とのり粉を練り合わせて成形し乾燥させた手づくりの線香は、杉葉特有の香りと、火のつきがよく、折れにくいのが特徴です。



所在地 MAP



- 石工品**
- 1 出雲石灯ろう
- 漆器**
- 2 八雲塗
- 陶磁器**
- 3 石見焼
- 4 布志名焼
- 5 錦山焼
- 6 楽山焼
- 7 袖師焼
- 8 出西焼
- 9 温泉津焼
- 10 雪舟焼窯元
- 11 石州亀山焼
- 12 焼火窯
- 13 火の川焼
- 14 白磁
- 15 出雲本宮焼
- 金工品**
- 16 奥出雲玉鋼工芸品
- 17 出雲鍛造工芸品
- 18 雲州幸光刃物
- 19 石見岡光刃物
- 20 雲州忠善刃物
- 21 高橋鍛冶製品
- 木竹品**
- 22 雲州そろばん
- 23 福こづち
- 24 木芸品
- 25 ケヤキ挽物細工
- 26 組子細工
- 27 出雲一刀彫
- 28 木地人形
- 29 松江藩藤細工
- 30 ケヤキ指物木工
- 31 出雲獅子頭
- 32 奥出雲銘木製品
- 33 木工品
- 34 松江彫
- 35 挽物轆轤
- 36 大社造りの神棚
- 37 削物木工
- 織維**
- 38 筒描藍染
- 39 広瀬紺
- 40 安来織
- 41 出雲織
- 42 出西織
- 43 石見神楽衣裳
- 和紙**
- 44 出雲民芸紙
- 45 勝地半紙
- 46 石州半紙
- 47 石州和紙
- 48 斐伊川和紙
- 49 広瀬和紙
- 貴石細工**
- 50 出雲めのう細工
- 51 隠岐黒耀石細工
- 面**
- 52 石見神楽面
- 人形玩具**
- 53 じょうき・綱車
- 54 大社の祝凧
- 55 長浜人形
- 56 松江姉様
- 57 松江和紙てまり
- その他**
- 58 杉葉線香
- 59 石見神楽蛇胴
- 60 石見根付
- 61 飯南のしめ縄

ここで買えます!



島根県物産観光館
〒690-0887
島根県松江市殿町191番地
TEL. 0120-40-4150
FAX. 0852-25-6785



日比谷しまね館
〒100-0006
東京都千代田区有楽町1-2-2
日比谷シャンテB1F
TEL. 03-6457-9404
FAX. 03-6457-9405

島根県ふるさと伝統工芸製造業者連絡先

(61品目 80事業者 R7.12.15現在)

分類	工芸品名	製造業者	住所	電話番号
金工品	16 奥出雲玉鋼工芸品	奥出雲玉鋼工芸組合	〒699-1821 仁多郡奥出雲町稲原63-5	0854-52-1797
	17 出雲鍛造工芸品	小藤洋也	〒692-0623 安来市広瀬布部1168-8	0854-36-0026
	18 雲州幸光刃物	楠 亀代徳	〒699-1802 仁多郡奥出雲町大呂1004-3	0854-52-1260
	19 石見岡光刃物	(有)岡田鉄工刃物	〒694-0052 大田市久手町刺鹿720-2	0854-82-5311
	20 雲州忠善刃物	川島久忠	〒699-1511 仁多郡奥出雲町三成712-7	0854-54-0920
	21 高橋鍛冶製品	高橋 勉	〒693-0214 出雲市所原町2607-1	0853-48-0885
	木竹品	22 雲州そろばん	雲州算盤協同組合	〒699-1832 仁多郡奥出雲町横田992-2
23 福こづち		(株)大社木工	〒699-0741 出雲市大社町中荒木2730-1	0853-53-2247
24 木芸品		おかや木芸	〒699-0631 出雲市斐川町直江4844-1	0853-72-0538
25 ケヤキ挽物細工		森山 登	〒693-0011 出雲市大津町714-3	0853-21-3983
26 組子細工		門脇和弘	〒692-0213 安来市伯太町井尻55	090-4573-0941
		吉原敬司	〒699-3303 浜田市三隅町室谷912-1	0855-34-0227
		舟木 清	〒699-1122 雲南市加茂町三代525	0854-49-7301
27 出雲一刀彫		藤井孝三	〒693-0054 出雲市浜町331	0853-22-5600
28 木地人形		松谷伸吉	〒699-0763 出雲市大社町日御碕98-1	0853-54-5636
29 松江藩藤細工		長崎 誠	〒690-0033 松江市大庭町1614	0852-28-0040
30 ケヤキ指物木工		野白千晴	〒692-0011 安来市安来町東十神2146	0854-22-2908
31 出雲獅子頭		中尾芳雄	〒693-0015 出雲市大津町朝倉1-9-16	0853-23-0666
32 奥出雲銘木製品		(有)出雲工藝	〒699-1831 仁多郡奥出雲町中村296-1	0854-52-0330
33 木工品		廣兼 勇	〒699-5132 益田市横田町254-1	0856-25-1235
34 松江彫		福田利浩	〒690-0888 松江市北堀町231	0852-24-6568
35 挽物轆轤		濱田幸介	〒699-0103 松江市東出雲町上意東2010	0852-52-3539
36 大社造りの神棚	藤本木工芸 藤本 剛	〒699-0751 出雲市大社町杵築西2306	0853-53-2514	
37 刳物木工	村山創達	〒690-0033 松江市大庭町1614	090-6419-7100	

分類	工芸品名	製造業者	住所	電話番号
石工品	1 出雲石灯ろう	来待石灯ろう協同組合	〒699-0404 松江市宍道町東来待1644-1	0852-66-0274
漆器	2 八雲塗	島根県八雲塗振興会	〒690-0887 松江市殿町191	0852-22-5758
		(株)山本漆器店	〒690-0843 松江市末次本町45	0852-23-2525
		漆芸のわたなべ	〒691-0001 出雲市平田町1061	0853-62-2147
陶磁器	3 石見焼	石見陶器工業協同組合	〒699-2841 江津市後地町1315	0855-57-0155
		雪舟窯 福郷生雲	〒697-0426 浜田市旭町丸原1	0855-45-0036
		尾上窯 螺山勝実	〒697-0023 浜田市長沢町259-1	0855-22-6302
		吉田製陶所 吉田好幸	〒697-0005 浜田市上府町口774	0855-28-2670
		石州宮内窯 宮内孝史	〒695-0024 江津市二宮町神主2211-3	0855-53-0304
		元重製陶所 元重彰治	〒695-0016 江津市嘉久志町新川東イ1762	0855-52-2927
		石州嶋田窯 嶋田孝之	〒699-2841 江津市後地町1315	0855-55-1337
	4 布志名焼	雲善窯 土屋知久	〒699-0203 松江市玉湯町布志名428-11	0852-62-0738
		湯町窯 福岡庸介	〒699-0202 松江市玉湯町湯町965	0852-62-0726
	5 錦山焼	中島剛史	〒692-0023 安来市黒井田町1987	0854-22-2627
6 楽山焼	長岡住右衛門空郷	〒690-0823 松江市西川津町2512	0852-32-8695	
7 袖師焼	尾野友彦	〒690-0049 松江市袖師町3-21	0852-21-3974	
8 出西焼	出西窯	〒699-0612 出雲市斐川町出西3368	0853-72-0239	
9 温泉津焼	(有)椿窯 荒尾 寛	〒699-2501 大田市温泉津町温泉津イ665-30	0855-65-2022	
	森山窯 森山雅夫	〒699-2501 大田市温泉津町温泉津イ3-2	0855-65-2420	
	椿窯 荒尾浩之	〒699-2501 大田市温泉津町温泉津イ3-4	0855-65-2286	
10 雪舟焼窯元	福郷 徹	〒698-0011 益田市染羽町4-29	0856-22-2056	
11 石州亀山焼	佐々木弘吉	〒697-0005 浜田市上府町荒相口418-1	090-6836-5509	
12 焼火窯	加藤洋子	〒684-0303 隠岐郡西ノ島町大字美田973	08514-6-1151	
13 火の川焼	松江陶苑 福島絵美	〒690-0842 松江市東本町3丁目13	0852-24-1672	
14 白磁	白磁工房 石飛 勲	〒690-2634 雲南市三刀屋町乙加宮1207-1	0854-45-4514	
15 出雲本宮焼	出雲本宮焼高橋幸治窯 高橋 幸治	〒690-0264 松江市大野町2324-3	0852-88-3348	

分類	工芸品名	製造業者	住所	電話番号
面	石見神楽面	柿田兼志	〒697-0062 浜田市熱田町636-60	0855-27-1731
		太田幸生	〒699-3162 江津市敬川町1119-10	0855-53-2722
		花田 淳	〒697-0511 浜田市旭町都川2115	0855-47-0557
		恵木 勇也	〒699-2842 江津市都治町441-4	0855-55-0161
人形玩具	53 じょうき・鯛車	高橋日出美	〒699-0701 出雲市大社町杵築東724	0853-53-1553
	54 大社の祝風	高橋日出美	〒699-0701 出雲市大社町杵築東724	0853-53-1553
	55 長浜人形	日下 悟	〒697-0063 浜田市長浜町1419-1	0855-27-0233
		渡辺真奈美	〒699-3212 浜田市三隅町向野田605-5	090-1011-4217
	56 松江姉様	松崎昭子	〒690-0874 松江市中原町322	0852-23-5651
57 松江和紙てまり	絹川令子	〒690-0873 松江市内中原町244	0852-33-7973	
その他	58 杉葉線香	内田線香店	〒692-0623 安来市広瀬町布部186	0854-36-0178
	59 石見神楽蛇胴	植田倫吉	〒697-0062 浜田市熱田町1319-2	0855-27-0540
	60 石見根付	田中俊晴	〒695-0016 江津市嘉久志町イ1902-2	0855-52-5855
	61 飯南のしめ縄	飯南町注連縄企業組合	〒690-3206 飯石郡飯南町花栗54-2	0854-72-1017

※ 最新情報については、島根県しまねブランド推進課HPで確認できます。

https://www.pref.shimane.lg.jp/industry/syoko/sangyo/dentou_kougei/kougei/



職人のインタビュー記事を掲載しています。

食と工芸の魅力発信サイト
「いいものしまね」

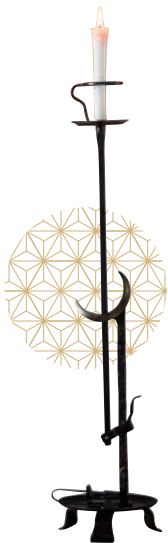
<https://www.iimono-shimane.jp>



経済産業大臣指定伝統的工芸品

分類	工芸品名	製造業者	住所	電話番号
石工品	出雲石灯ろう	来待石灯ろう協同組合	〒699-0404 松江市宍道町東来待1644-1	0852-66-0274
木竹品	雲州そろばん	雲州算盤協同組合	〒699-1832 仁多郡奥出雲町横田992-2	0854-52-0369
和紙	石州和紙	石州和紙協同組合	〒699-3225 浜田市三隅町古市場683-3	0855-32-1166
陶器	石見焼	石見陶器工業協同組合	〒699-2841 江津市後地町1315	0855-57-0155

分類	工芸品名	製造業者	住所	電話番号
織 維	38 筒描藍染	長田茂伸	〒693-0011 出雲市大津町1109	0853-21-0288
		天野 尚	〒692-0404 安来市広瀬町広瀬968	0854-32-3384
	39 広瀬緋	広瀬緋技術保存会	〒692-0404 安来市広瀬町広瀬1858-4	0854-32-3862
		遠藤京子	〒692-0011 安来市安来町1397	0854-22-2578
	40 安来織	遠藤京子	〒692-0011 安来市安来町1397	0854-22-2578
	41 出雲織	青戸柚美江	〒692-0023 安来市黒井田町352	0854-22-6777
	42 出西織	多々納朋美 (出西織 多々納工房)	〒699-0612 出雲市斐川町出西3655	0853-72-3120
	43 石見神楽衣裳	榎木千秋子	〒697-0053 浜田市大辻町75-2	0855-22-0550
		川邊志津枝	〒697-0062 浜田市熱田町1224-2	0855-27-0141
		杉井公人	〒695-0016 江津市嘉久志町イ1755-5	0855-52-7271
和紙	44 出雲民芸紙	出雲民芸紙工房	〒690-2102 松江市八雲町東岩坂1733	0852-54-0303
		勝地半紙	佐々木 誠	〒699-4431 江津市桜江町長谷2696 風の国 風の工房
	46 石州半紙	石州半紙技術者会	〒699-3225 浜田市三隅町古市場1694	0855-32-1141
		石州和紙久保田	〒699-3225 浜田市三隅町古市場957-4	0855-32-0353
		西田製紙所	〒699-3225 浜田市三隅町古市場1550-3	0855-32-0349
		西田和紙工房	〒699-3225 浜田市三隅町古市場1694	0855-32-1141
	かわひら	〒699-3225 浜田市三隅町古市場683-3	0855-32-1166	
	47 石州和紙	石州和紙協同組合	〒699-3225 浜田市三隅町古市場683-3	0855-32-1166
		石州和紙久保田	〒699-3225 浜田市三隅町古市場957-4	0855-32-0353
		西田製紙所	〒699-3225 浜田市三隅町古市場1550-3	0855-32-0349
西田和紙工房		〒699-3225 浜田市三隅町古市場1694	0855-32-1141	
かわひら	〒699-3225 浜田市三隅町古市場683-3	0855-32-1166		
48 斐伊川和紙	井谷伸次	〒690-2511 雲南市三刀屋町上熊谷302	0854-45-3886	
49 広瀬和紙	大東由季	〒692-0623 安来市広瀬町布部1704-2	0854-26-4816	
貴石工細工	50 出雲めのう細工	(株)めのや	〒699-0202 松江市玉湯町湯町1755-1	0852-61-3141
	51 隠岐黒耀石細工	八幡浩二	〒685-0305 隠岐郡隠岐の島町久見320	080-1933-7128



お問い合わせ先

島根県しまねブランド推進課

〒690-8501 島根県松江市殿町1番地
TEL. 0852-22-6397 FAX. 0852-22-6859

しまねの悠久の自然や歴史・文化に恵まれて育った
食・伝統工芸の「いいもの」を紹介します。

いいものしまね
<https://www.iimono-shimane.jp/>

